

「やさしく楽しく夢のある歩道整備を」

歩道について考えてみました。

歩道は、これまで車道の付け足しみたいな存在で、トラックや自家用車などに遠慮しながら狭い白線の中を、こわごわ小さくなり歩いていました。そんな車優先の社会とは、早くおさらばしたいものです。

歩行者優先の道路整備への転換してほしい。

確かに、現在、あちらこちらで歩道の設置がなされています。新設にしる改良にしる、ゆったりした幅員の歩道が整備され、高齢者や子供達も、広い歩道で、車の通行を気がねすることなく、のびのび歩けるようになったと思います。それはそれでいいのですが、今後は、歩道をライフラインの視点だけで見るのではなく、みんなが楽しめる遊歩道にできないでしょうか。そのために次のような提案をいたします。

まず、なにより、歩行者にもやさしい歩道です。今のアスファルトでは、少し長く歩こうものなら、すぐに脚や膝、腰などが痛くなります。若い者ならともかく、いわゆる生活弱者にとって負担が大きいのではないのでしょうか。弾力性のある素材を利用したら、ずいぶん違うのではないのでしょうか。

次に歩道をもっとカラフルにしてほしい。

現在の歩道は、あまりにも画一的すぎます。

それは、色彩を豊かにするというだけでなく、地域のカラーを生かしたり、芸術性をもたせたりといろいろあるのではないのでしょうか。ともかく歩いていて、心がうきうきするような気分になりたいものです。

最後に「歩く駅」があればいいと思います。

何も難しく考える必要はないのです。例えば信号待ちなどの立ち止まる際に、ちょっと腰をおろす場所、日ざしをさえぎる街路樹のそばの水飲み場など。そして何より、歩道が地域に住む人々の交流の場になれば、どんなにすてきでしょう。縁台をおいて将棋をしたり夕涼みをしたり、今日でも活用できるのでは。

歩道が地域のオアシスに。そう願ってやみません。